

# 学位（博士）論文要旨

看護学専攻 <p style="text-align: center;">基礎看護学分野 基礎看護学教育研究領域</p>	学籍番号 0633001  氏 名 寺島久美
論文題目	<p style="text-align: center;">クリティカル看護への看護理論の適用</p> - 科学的看護論を適用した事例検討会における看護者の認識の変化に焦点を当てて-
<p>Keywords: クリティカルケア, 看護理論の適用, 科学的看護論, 事例検討, ナイチンゲール看護論</p> <p>本研究は, 看護の独自性を見失いがちなクリティカル看護において, 科学的看護論の有用性を検証した研究者と, クリティカル看護に携わる看護師グループとの協働で, 科学的看護論を適用した事例検討を行ない, その過程で生じた看護者の認識の変化を明らかにするを通して, クリティカル看護に科学的看護論を適用することの意義と課題, および理論適用のための方法的知見を得ることを目的としている。</p> <p>研究方法は, 事例検討会の会話の内容を録音し逐語録として作成したもの, および参加者全員が事例検討終了後に記入した感想カードから, 性質が異なると思われる4事例8事例検討を選定し, 看護者としての認識の変化をたどりながら重要と思われるキーセンテンスを選び研究素材とした。研究素材をもとに, まず, 看護者の表現の背後にある認識を読みとり, 科学的看護論を媒介にした科学的抽象によって看護者全体の認識の変化の過程的構造を抽出し, 全研究素材の共通構造を明らかにした。次いで, 看護理論の修得段階の異なる看護者間の認識の相互作用に焦点を当てて全研究素材に共通する構造を抽出し, それぞれの結果を対照統合し, 以下の結果, および看護者の認識の変化の実態を明らかにした。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科学的看護論を適用した事例検討の意義は, 看護者としての自らを内観して新たな目標像を描いて看護者としての使命感を高め, 対象の変化や実践の理論的根拠を見いだすことで看護の喜びや達成感を分かち合い, その過程において看護理論の意義を実感するという看護者個々の認識の発展をもたらし, それがチーム全体の実践の変化へと拡大して対象のよい変化を支えていったことである。</li> <li>2) 看護者全体の認識は実践方法論に即したかたちで発展して問題解決に至っていた。その発展は, 対象についての現象像を豊かにもっている看護者と, 現象から立体的な対象像を描くことになじんでいる看護者という異なる特徴をもつ認識の相互浸透によってもたらされていた。</li> <li>3) 課題は, 理論の基盤を認識に形成し自在に活用する段階に至るには積み重ねの訓練が必要であり, 初期の段階では概念枠組みの理解と日常的ではない認識のはたらきを要求されるため, 苦痛や困難を感じてしまうことで, 理論修得を妨げる可能性である。</li> <li>4) クリティカル看護に科学的看護論を適用していくには, 今回用いた事例検討の方法が有用であり, その際, 看護理論の修得段階が異なる看護者というメンバー構成が重要な意味をもち, 加えて個人的・職場環境的・構成員的要件が有機的に作用することでその実現が期待できる。</li> </ol>	

指導教員氏名（自署）:

寺 井 理 子

平成 21 年 2 月 9 日

宮崎県立看護大学大学院  
研究科長 薄井 坦子 様

学位論文 (修士・博士) 審査委員

主査 氏名 (自署) 薄井 坦子

副査 氏名 (自署) 山岸 仁美

副査 氏名 (自署) 赤星 誠

副査 氏名 (自署) 大名門 裕子

## 学位論文審査及び最終試験の結果報告書

このたび、審査委員会として、学位論文 (修士・博士) の審査及び最終試験を終了したので、その結果について下記のとおり報告します。

## 記

学生氏名	寺島 久美	学籍番号	0633001
看護学専攻	理論看護学	指導教授氏名	薄井 坦子
成績 評価	学位 論文	最終 試験	合 格
論文 題目	クリティカル看護への看護理論の適用 —科学的看護論を適用した事例検討会における 看護者の認識の変化に焦点を当てて—		
審査 要旨	予備審査では、看護の独自性・専門性が問われ続けているクリティカル領域において、看護理論を適用する事例検討会を通して、実践家たちが看護の専門性を実感し質的向上を果たした点が評価されたが、研究者の位置を明確にすること、全事例の分析を行なうこと、分析のレベルを上げることが指摘された。本審査では、指摘事項について精力的に取り組み、4 事例に 8 回行なった事例検討会における看護者全体の認識の変化の過程的構造を明らかにした。事例検討会に理論を学習した看護者が参加することで、理論を意識的に適用してよい看護を実践しようとする実践者たちとの間やメンバー間に相互浸透が起こり、看護過程に発展をもたらしたことを事実に論理的に解明し、視覚化し得た点で、理論看護学上価値ある研究として認められた。		